

【写真 1】

具志頭幼稚園の園児たちに先生が「汗水節」について説明している様子



【写真 2】

具志頭幼稚園の園児たちが「汗水節」の曲を聴きながら園庭を掃除している様子



「具志頭幼稚園教育計画」の教育方針によると、「保育園及び小学校との独自性と連続性について話し合い、行事などを通して連携を図る」とある^(註7)。教育課程の週・月活動においては、毎週月曜日に「汗水タイム」があり、“豊かな心の育成”と位置付けて^(註8)、宮良長包の「汗水節」を活用して、上記写真の活動を定時に一年を通して保育実践に力を入れている。

【写真3】

具志頭小学校の児童たちが「汗水節心の行動デー」で地域を清掃している様子



「具志頭小学校教育計画」の学校経営方針によると、「豊かな心の育成を図る。“汗水節の心を行動に”を地域と共に推進し、明るく思いやりがあり、勤労・奉仕に富む児童を育成し、夢や希望をはぐくむ進路指導の充実を図る」「幼稚園、家庭との連携を図り、信頼される学校づくりに努める」とある^(註9)。教育目標の重点化・具現化においては、“豊かな心でよく働く子”の位置付けで、「汗水タイム・汗水節の心行動デーの取り組み」として実践的事項となっている^(註10)。「汗水節の心行動デー」の事前取り組みとして歌詞の意味を理解することや、運動会で汗水節をエイサーで踊る活動など音楽活動に生かしている。また、“思いやりの心、社会奉仕の心の育成”として徳育を掲げている。このように、小学校では、「汗水節の心を行動に」に基づく地域貢献、勤労・奉仕、道德心の教育推進に重点を置いていることがわかる。

この実践で、宮良長包作曲・仲本稔作詞の「汗水節」が幼稚園、小学校で有効活用されていることが証明されている。

IV-2. 石垣市立まきら幼稚園及び真喜良小学校の事例

石垣市立まきら幼稚園及び真喜良小学校は、毎年11月に、隣接する児童公園（舟蔵公園）の野外ステージにおいて、「宮良長包音楽集会」を催しており、宮良長包の生い立ちや音楽作品について学習し、発表会を行なっている。「長包音楽」の代表的な「えんどうの花」「安里屋ユンタ」を中心に歌やエイサー、合唱、合奏等、多彩なプログラムを披露する。この催しは、幼稚園、小学校が連携している「音楽集会」であるが、保護者や地域の人も参加して楽しんでいる。

まきら幼稚園の園外保育年間計画によると、11月には「宮良長包音楽集会について、郷土の音楽家・宮良長包氏の生誕について関心を持つ。小学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に過ごす」とある。^(註11)

さらに、真喜良小学校の「学校教育計画」によると、学校経営の指導の重点の中で、「幼・小・中連携及び他校との交流学習の推進」^(註12)があり、年間行事には「11月21日宮良長包集会」^(ママ)

と明記されている。^(註13)

また、「宮良長包集会実施計画」によると^(註14)、ねらいとして「たくさんの人に愛され、歌い伝えられている作品を残した宮良長包が、石垣市新川の出身であることを誇りに思い、故郷を愛する心情を育てる」「長包の功績を称え、遺作を聴いたり歌いあったりすることで、その作品をより深く愛する心情を育てる」とある。また、「宮良長包音楽集会」(2012.11.15)のプログラムは、①宮良長包の紹介 ②音読「大鷹小鷹」 ③舞踊「安里屋ユンタ」 ④合唱「えんどうの花」が演目となっている。

なぜ、まきら幼稚園、真喜良小学校が「宮良長包音楽集会」を、教育方針に掲げて実践しているか、次のようなことが挙げられよう。

1. 隣接する児童公園に宮良長包の顕彰碑があり、野外ステージが設営されている。
2. 宮良長包が石垣市出身であることに誇りを持つ。
3. 「宮良長包音楽」の素晴らしさを体現し継承していく。
4. 幼少連携の一環として位置付ける

公立学校教員は転勤があり、継承して指導していくのが難しい中、まきら幼稚園、真喜良小学校は「宮良長包音楽」の学習や継承を教育方針に打ち出し、学校教育に根差している実践事例と言えよう。今回は「音楽集会」を直に取材できなかったが、例年の様子を筆者が幼稚園訪問の折、インタビューした内容や小学校への聞き取りを中心にまとめた。^(註15)

まきら幼稚園、真喜良小学校は石垣市在で離島なため、音楽集会当日の様相を紹介するのは、次の機会としたい。

IV-3. 糸満市立糸満幼稚園

糸満市立糸満幼稚園は、平成22年、近隣の百名幼稚園、船越幼稚園と統合している。統合前は、「宮良長包音楽」を盛んに取り入れ活動していた。例えば、運動会で「安里屋ユンタ」をエイサーに取り入れ、生活発表会で「えんどうの花」を合唱、「汗水節」を方言劇の中で踊りに取り入れた。しかし、統合後は、園児が180名になり糸満幼稚園の特徴であった「宮良長包音楽」の実践については、今年も行われていないということであった。^(註16)

V. 「汗水節」楽曲について

具志頭幼稚園、具志頭小学校、及び糸満幼稚園で教材として活用されている「汗水節」(あしみじぶし)は、昭和4(1929)年に作曲、作詞者が仲本稔(1904～1977)、作曲者は宮良長包である。【楽譜1】

昭和3年、昭和天皇御即位記念に沖縄県学務課が募集した「貯蓄奨励民謡」に、当時、具志頭村の郵便局に勤務していた仲本稔が応募、その詞が当選し、長包が曲を付けた作品である。

歌意は、勤勉に働く大切さ、貯蓄の大切さ、学問の大切さ、社会に奉仕する大切さを歌った6番まである教訓歌で、教育的視点も多い。

長包は依頼を受けて(沖縄県からか?)作曲したものと思われる。おそらく、この作品を手掛けた昭和3年ごろは、長包も作曲家として沖縄県内では活躍しており、この詞の作曲者として白羽の矢が立ったのではないだろうか。それがご縁かもしれないが、昭和8(1933)年に、具志頭小学校の校歌を作曲しており(作詞者不明)、現在も歌われている。

長包の作曲手法は、「赤ゆらの花」(1922)や「なんた浜」(1930)のように洋楽的な旋律の